

# 全苗連だより

Vol. 88 (10月号)

令和3年10月1日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

## 令和3年度全国育樹活動コンクールで熊本県苗組の 小村哲典氏が農林水産大臣賞を受賞されました

公益社団法人国土緑化推進機構が主催する令和3年度全国育樹活動コンクールにおいて、熊本県樹苗協同組合の小村哲典氏が農林水産大臣賞を受賞されました。

育樹活動コンクールは、森林及び樹木の保護・保育の推進が、国土の緑化を進めるうえで極めて重要であることから、国土緑化運動の一環として実施されています。

表彰式は令和3年10月10日(日)に北海道札幌市で開催される第44回全国育樹祭の式典行事で執り行われます。なお、前夜には「ニューオータニイン札幌」にて皇族殿下からお声掛けいただく予定です。

全国での受賞者は ①農林水産大臣賞(団体1点、個人1点)、②林野庁長官賞(団体2点、個人1点)③国土緑化推進機構理事長賞(団体5点、個人1点)です。

**受賞者の活動の略歴等**(資料；熊本県樹苗協同組合提供)

①氏名：こむらてつり小村哲典(38才)

②所在地：球磨郡相良村柳瀬

③活動の概要

小村氏は、県内約5割のシェアを占める年間約150万本の山林苗木を生産する県内有数の苗木生産会社の4代目代表取締役社長です。中でも再造林コストの縮減対策として導入されたマルチキャビティコンテナ苗の生産にいち早く注目し、きめ細やかな管理等の独自の工夫を重ね、年間約50万本を出荷するまでに至り、本県のコンテナ苗の普及に大きく貢献されています。

更に、林業担い手不足、特に保育等の従事者が不足していることを受け、Uターンなど田舎で就職を希望する都会の人や地元の若者の受け皿として、造林事業体を立ち上げ、地域の森林の育樹の促進に重要な役割を果たされています。

また、令和元年度に開校した「くまもと林業大学校」の講師や実習等の受入にも協力しており、地域の中核的な存在として県全体を捉えた人材の育成にも積極的に取り組まれています。

このほか、球磨川流域で甚大な被害をもたらした令和2年7月豪雨災害の際には、すぐさま仲間を募り、人吉市や球磨村の被災地に毎日のように赴き、大量に発生する災害被災品(ゴミ)を片付け、トラックで運搬するなどのボランティア活動に尽力され、林業だけでなく、人吉・球磨地域にとって無くてはならない存在です。

全苗連としても、氏の益々のご活躍を祈念申し上げます。

令和3年度も折り返しとなりました。茨城県林業種苗協同組合、熊本県樹苗協同組合からの話題提供です。新聞に掲載された内容をお届けします。

ル  
ボ

# 主伐・再造林時代の主役は「苗木」!

## コンテナ苗やエリートツリーなど生産現場に変化

茨城県の茨城県林業種苗協同組合(以下、茨城組)と熊本県の熊本県樹苗協同組合(以下、熊本組)の両組が、令和3年度も折り返しとなりました。新聞に掲載された内容をお届けします。



茨城組の代表者は、江戸時代には苗木生産が行われていたと語る。古くからの苗木生産地、茨城の苗木生産は、主伐・再造林時代の主役として、コンテナ苗やエリートツリーなど生産現場に変化している。茨城組の代表者は、江戸時代には苗木生産が行われていたと語る。古くからの苗木生産地、茨城の苗木生産は、主伐・再造林時代の主役として、コンテナ苗やエリートツリーなど生産現場に変化している。

茨城組の代表者は、江戸時代には苗木生産が行われていたと語る。古くからの苗木生産地、茨城の苗木生産は、主伐・再造林時代の主役として、コンテナ苗やエリートツリーなど生産現場に変化している。



茨城組の代表者は、江戸時代には苗木生産が行われていたと語る。古くからの苗木生産地、茨城の苗木生産は、主伐・再造林時代の主役として、コンテナ苗やエリートツリーなど生産現場に変化している。



茨城組の代表者は、江戸時代には苗木生産が行われていたと語る。古くからの苗木生産地、茨城の苗木生産は、主伐・再造林時代の主役として、コンテナ苗やエリートツリーなど生産現場に変化している。

茨城組の代表者は、江戸時代には苗木生産が行われていたと語る。古くからの苗木生産地、茨城の苗木生産は、主伐・再造林時代の主役として、コンテナ苗やエリートツリーなど生産現場に変化している。

茨城組の代表者は、江戸時代には苗木生産が行われていたと語る。古くからの苗木生産地、茨城の苗木生産は、主伐・再造林時代の主役として、コンテナ苗やエリートツリーなど生産現場に変化している。

茨城組の代表者は、江戸時代には苗木生産が行われていたと語る。古くからの苗木生産地、茨城の苗木生産は、主伐・再造林時代の主役として、コンテナ苗やエリートツリーなど生産現場に変化している。

茨城組の代表者は、江戸時代には苗木生産が行われていたと語る。古くからの苗木生産地、茨城の苗木生産は、主伐・再造林時代の主役として、コンテナ苗やエリートツリーなど生産現場に変化している。

# 伐って、使って、植えて、育てて

伐って、使って、植えて、育てて。この言葉は、林業の循環を象徴しています。伐採された木材は、木材として使われ、残ったチップやクズは、肥料として再利用されます。また、伐採された土地には、新しい苗木が植えられ、育てられて再び伐採されるというサイクルが繰り返されています。



小花粉スギを生産中の古川さん(左)、渉さん

### 相 良 村

## 花粉症対策のスギ苗生産

### 古川 樹苗園 2種類を育成中

春に多くの人を悩ませる花粉症対策として、花粉の量が極めて少ない「小花粉スギ」の苗木出荷を目指し、相良村柳瀬井沢の古川樹苗園は2種類の生産に取り組んでいる。

小花粉スギは、花粉を普通のスギの1%以下に抑えたもの。花粉症対策と林業の振興を両立した品種として開発され、全国の山林で植え替えが進められているという。

古川樹苗園では2年前から熊本県の指導を受け、2種類各100本の育成を母樹園で開始。周辺を柵で覆った母樹園では、高さ1・7m前後に成長した小花粉スギが並び、今後は切り取った穂を植えて増やしていく作業に入る。

また、6年前からスギ、ヒノキ、クヌギのコンテナ苗の生産にも着手。コンテナ苗は、丸いポット状の穴が並んだ専用トレーで育苗するため、畑で育てる裸苗と違い根切り作業が不要で植えやすく、活着が早いなどのメリットもあり、普及が進んでいる。現在、コンテナ苗7万本、露地苗17万本を生産。早ければ10月から九州内に順次出荷される。

代表の古川十市さん(70)は「生産量を増やし、成長は普通のスギと同じなので数年後には出荷できる。専従の古川渉さん(28)は出荷の際、小花粉スギの苗木を求められる。これから切り替わっていく品種と話している。

### 新型コロナウイルス感染症への対応について

- ・ 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言等が終了したことにより、催物の開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等が変更されました。

9月30日をもって、緊急事態措置及びまん延防止等重点措置を終了することが公示されたところです。しかしながら、当該重点措置区域から除外された都道府県には、1か月間(10月30日までの間)、経過措置が適用されました。内容は、催物の開催制限等やテレワーク等の徹底ですが、詳細につきましては、全苗連HPの「会員向けページ」をご覧ください。

なお、今後も新型コロナウイルス感染症対策本部からの連絡事項等につきましては、情報がより次第速やかに全苗連HPのインフォメーション並びに会員向けページにUPしますので、そちらをご確認願います。

## 全苗連・苗組の行事予定

- 8月20日【延期】 第59回農林水産祭シンポジウム(天皇杯受賞 福島県上原和直氏)(三会堂ビル;東京都港区)(主催;農林水産省・公益財団法人日本農林漁業振興会)
- 9月2～3日【中止】 第6回全苗連生産者の集い(福島県「とうほう・みんなの文化センター」)
- 10月16日 (国研)森林研究・整備機構森林総合研究所講演会(web)
- 11月11日 九州地区林業用種苗需給連絡協議会(長崎県)(書面)
- 11月11日～12日 九州苗連協議会総会(福岡県朝倉市)
- 11月16日 (国研)森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター現地見学会(茨城県日立市)
- 11月25日～26日 近畿地区林業用種苗需給連絡協議会(大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー))
- 11月 中国地区林業用種苗需給連絡協議会(鳥取県)(書面)
- 11月下旬 北海道・東北地区林業用種苗需給連絡協議会(青森県)(書面)